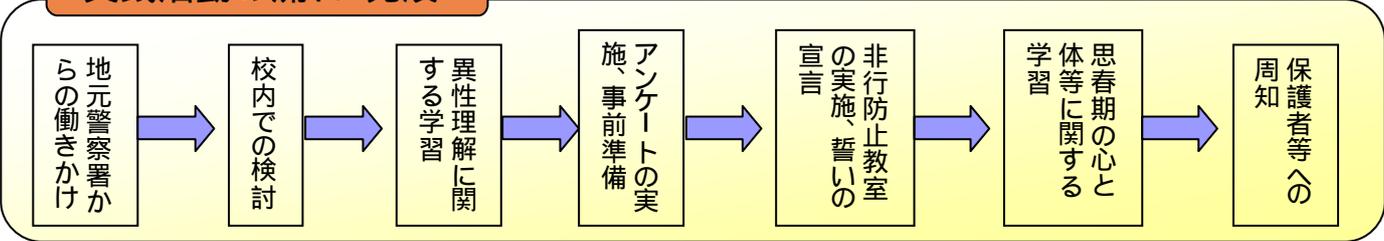


事例15 「外部講師を招き、生徒によるディスカッションを行う取組」(高等学校)

取組のポイント

・携帯電話による様々なサイトへの接続に当たり、興味本位に走ることなく、その陰に潜む危険や留意すべき点に気づかせ、自ら危険を防止し、互いの尊厳を守る責任について考えさせるとともに、正しく利用する姿勢や判断力を身に付けさせる。また、講演会形式でなく、ディスカッションの形式をとることにより、生徒の意見交換を通して、自ら考える姿勢を引き出すようにする。

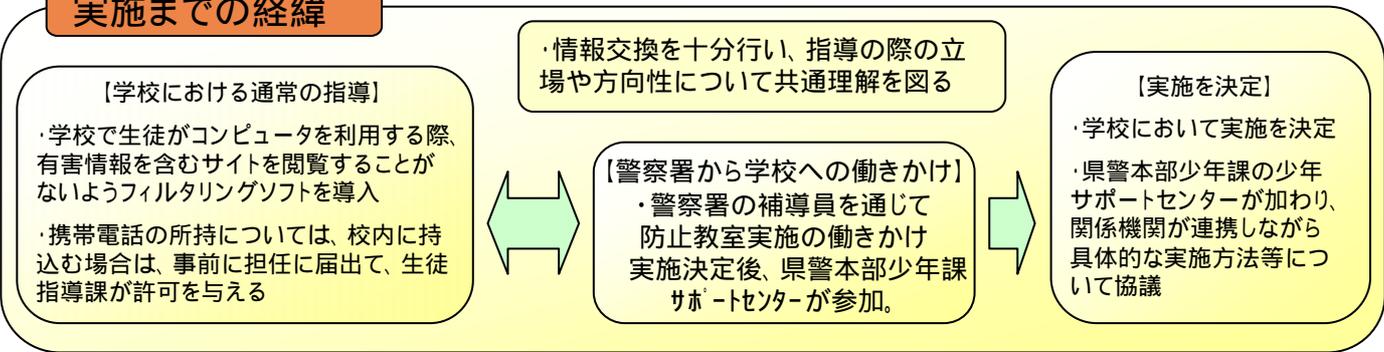
実践活動の流れ・発展



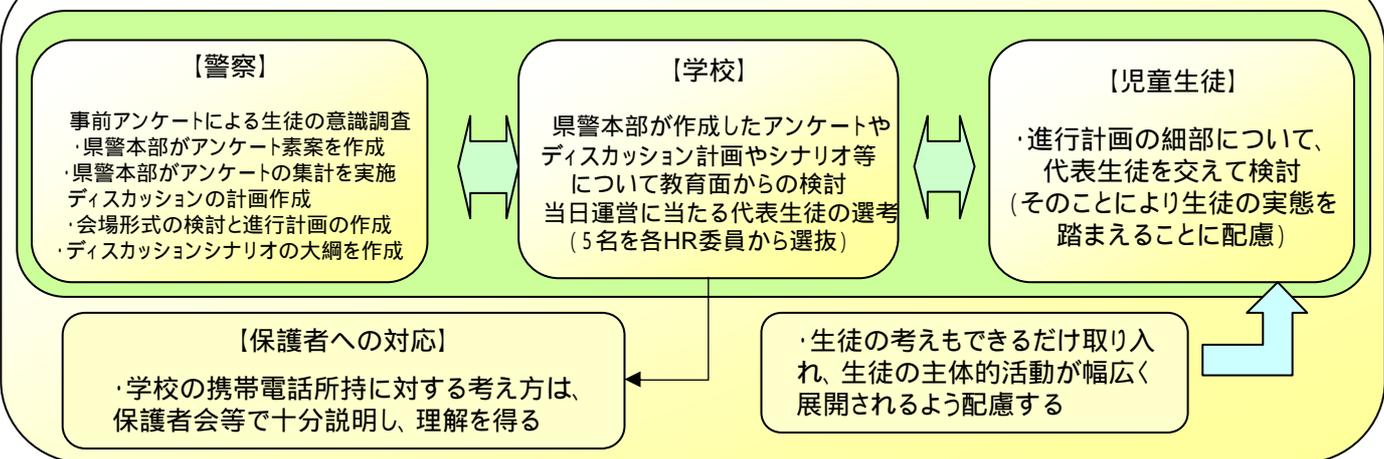
教育課程上の位置付け

(LHRの時間を活用して、人権問題や交通安全指導、進路指導など、啓発活動を恒常的に行う一方で、臨機応変にテーマを設定している。非行防止教室は性教育の一環として実施している。)
 非行防止教室(性教育の一環として「保健体育」、思春期の性等に関する学習として「ホームルーム活動」。)

実施までの経緯



事前の取組



非行防止教室等の開催

ディスカッションの実施

(NO！出会い系サイト・フォーラムディスカッション)



少年補導職員より被害の実態等の説明

・高校生の被害の実態を中心に説明し、自分たちの問題としてとらえさせる



生徒より質問、少年補導職員より回答

生徒

少年補導職員

・たくさんの人と知り合うための手段として、出会い系サイトは必要ではないか
・まじめな内容や交際をするのに利用するのなら構わないのではないか
・出会い系サイトそのものが悪いのではなく、使い方が悪いのであり、そのことを踏まえた対応が必要ではないか



・友達とは、お互いに時間をかけて、信頼関係を作ることで、本当の友達になるものであり、そうした努力が必要ではないか
・正しい使い方をして、犯罪者にとっては、自分の本心を隠して相手方に接近できる、大変危険なサイトであることに変わりはない
・いつの間にか、相手方に自分の個人情報をしてしまい、思わぬ被害に遭った人もたくさんいる



アンケートの紹介

・自分専用の携帯電話を持っている人 1年生:84%、2年生:82%
・携帯電話の使用料金を自分の小遣いから払っている人 1年生:7%、2年生:7%
・一定額を超えた使用料金だけ自分で払っている人 1年生:24%、2年生:16%

・生徒の問題意識を高めるようなアンケート項目とする



生徒

アンケート結果を踏まえて更に議論

少年補導職員



・携帯電話の料金を小遣いから払っているのだから、お金の使い方についてまで、大人や親の干渉を受けたくないという人については、自分の行動には、自分で責任を持つのが良いのではないか
・個人情報を流したり、相手と出会わなければ被害にあうことはないのではないか
・危険だと分かっているが出会い系サイトを必要とする人がいるという社会の在り方そのものを考えていかないと、法律で禁止だけでも意味がないのではないか



・高校生の多くはまだ未成年であり、社会的な責任を取れる範囲は限られているが、最終的には保護者に頼らなければならないことをよく理解して行動することが必要。また、携帯電話の利用方法も、周りの人に迷惑をかけないよう、最低限のマナーを守らなければならない
・メールだけのつきあいでその相手に心惹かれた時、絶対に会わないという自信があるか、また、出会い系サイトの世界にのめりこんで、勉強も手につかなくなり、昼夜逆転の生活になってしまうことがないか、自分自身を問い直してみよう

・生徒の発言を共感的に理解し、少年補導職員としての専門性を生かした応答をする
・出会い系サイトの問題にとどまることなく、社会の在り方・生き方とのかわりについても考える場となるよう配慮する



・確かに現代社会は人間関係が希薄になり、互いのことに無関心になりがち。みんながお互いに関心をもって、人間関係を深めていくことが、出会い系サイトに頼らない充実した人間関係を作る第一歩。真のふれあいができ、安心して相談したり、話し合える家族、友だち、先生、地域の人達が見付けられるよう、一人一人が頑張っていくことが大事

議論を踏まえた宣言を採択

・出会い系サイトはどんな理由があろうとも絶対アクセスしない
・嘘であろうと、冗談であろうと、どんな理由があっても絶対に出会い系サイトに書き込みしない
・出会い系サイトを利用している友だちがいれば、必ずやめるよう助言してあげる

事後の取組

(学校等の事後の取組み)

- ・学校では、性教育委員会を設置し、年間計画の中で系統性を持たせながら、諸教育活動を実施
- 各種アンケート調査による生徒の実情把握
- 性に関する正しい知識や考え方を養うための性教育講演会の実施
- ・PTAへの説明や広報資料を活用した周知

・保護者へ生徒の性意識や性犯罪の実態、フィルタリング等について知らせ、連携して子どもたちを犯罪から守る意識を高める

《家庭・地域との連携状況》

- ・PTA総会、及び各学年ごとに年2回ずつ保護者説明会を実施
- ・PTA(PTA広報部)よりPTA広報誌が年4回発行、学校情報の伝達を支援
- ・情報啓発資料の配布
- ・「出会い系サイト」に関わる問題性や配慮すべき事項について情報提供を実施



本事例の活用により期待される成果及び活用上の留意点

《成 果》

- ・生徒が代表生徒の意見交換の中に、自らの疑問点の解決を求め、熱心に参加していた。
- ・出会い系サイトの是非について真剣に考える良い機会となり生徒の意識が高まった。
- 【生徒の発言例】：「出会い系サイトは利用すべきではない。」
- 「携帯電話は便利だが、互いの顔を見ながら話し人間関係を深めるべき」
- ・学校外の地域の人々と生徒が意見交換した事は有意義な取組であった。

【生徒の誓い】

- ・出会い系サイトにはアクセスしない。
- ・出会い系サイトには書き込みしない。
- ・出会い系サイトを利用している友達がいたら止めるように助言する。

《実施上の留意点や課題》

- ・ディスカッションの場で理解したことを日々の生活の中で活かしていくためには、生徒一人一人の自覚が必要であり、情報化社会におけるメディアリテラシーの一層の育成が急務である。
- ・外部機関との連携を進めるに当たっては、きっかけを見出す姿勢が学校側にある必要がある。
- ・非行防止教室の開催のためには年度当初の計画段階から関係機関と連携を図ることが必要である。
- ・児童生徒を取巻く情報に対する保護者や地域の関心度を高める取組が必要である。

